

目 次

第 1 章	原子爆弾とノーベル賞	1
1.1	隠しマイク	1
1.2	ヒロシマをおおう死のキノコ雲	5
1.3	興奮した議論	7
1.4	ハーン教授に関するうわさ話	10
1.5	ノーベル賞受賞者に対する犯罪尋問	12
第 2 章	少年時代、勉強、最初の見習い期間	15
2.1	「すばらしい年」1879年	15
2.2	マールブルクとミュンヘンの大学での勉強	17
2.3	シャボン玉と塩素ガスの爆発：助手としてのハーン博士	20
2.4	「あなたは放射能について研究するとよい」	22
第 3 章	自然科学への目覚め	25
3.1	不思議な放射	25
3.2	先駆的なアイデア	28
3.3	「原子エネルギー」	30
3.4	ラジウム—偉大な革命家	33
第 4 章	はじめての科学的発見	37
4.1	ロンドンでウィリアム・ラムゼイとともに	37
4.2	ラジオトリウム—初めての新しい元素	39
4.3	不確かな将来	40
4.4	人生の中でもっともすばらしい年：ラザフォードとともにモントリオールで	42
第 5 章	ベルリン大学での研究	47
5.1	作業場での発見の喜び	47
5.2	「最近は何で大学教授資格を得ているのか信じられない」	50

5.3	元素は元素でない	53
5.4	リーゼ・マイトナー	57
5.5	同位体—難問の解決	62
5.6	国際的な出会い	63
5.7	原子の核	66
5.8	うっかり教授	68
第6章	カイザー・ヴィルヘルム協会	71
6.1	国に対する声明	71
6.2	カイザーがやって来る!	75
6.3	放射線防護—当時は聞き慣れない言葉	76
6.4	カイザー・ヴィルヘルム研究所での研究活動	78
第7章	第一次世界大戦	91
7.1	国防軍と科学	91
7.2	毒ガス戦	92
7.3	岐路に立つ科学者	95
7.4	もし、原子がばらばらに飛び散ると	96
第8章	原子研究者たちにとっての新しい成功	99
8.1	錬金術師の古くからの夢	99
8.2	競争の父、プロトアクチニウム	102
8.3	努力なくして幸運なし	104
8.4	応用放射化学	106
8.5	驚異の年 1932年	108
第9章	ナチズム—ドイツ科学の凋落	115
9.1	アメリカの客員教授として	115
9.2	ハーン、連帯する	118
9.3	フリッツ・ハーバーの追悼会	121
9.4	世界に勝る「ドイツ物理学」	123
第10章	93番元素をめぐる論争	127
10.1	金魚池での実験	127
10.2	メンデレーエフへの敬意	131
10.3	馬鹿げた理論	132
10.4	元素 93, 94, 95, 96... 無限へ?	135
10.5	リーゼ・マイトナーの亡命	138
第11章	ウラン原子の分裂	149
11.1	天国のきらめきで失敗に立ち向かう	149
11.2	よろけた発見	152

11.3	2億電子ボルト	158
11.4	「まったくのアメリカ人の誇張」	160
11.5	欠くことのできない連鎖反応	162
11.6	生誕 60 年記念号	165
11.7	誤った超ウラン	168
11.8	途方もないエネルギー	170
第12章	ヒトラーの原子爆弾の脅威	173
12.1	忘れられない会話	173
12.2	原子研究者に対する報告命令	174
12.3	重水	177
12.4	一人の部外者	180
12.5	爆弾は爆発しないだろう	182
12.6	兵器としての核物理学	186
第13章	アメリカの超爆薬ウラン 235	199
13.1	報道管制	199
13.2	歴史的手紙	201
13.3	悪魔の仕事が行われる	203
13.4	グローブス将軍の憂慮	205
13.5	オットー・ハーンの戦争中の活動	207
13.6	最後のドイツ戦時機密	210
第14章	原子科学者たちの搜索	215
14.1	標的に出会ったアルソス調査団	215
14.2	「親しい交流は禁止」	218
14.3	1945年8月6日「ウラン爆弾の日」	219
14.4	難しい決定	222
第15章	偏見に満ちた世界	225
15.1	絶望の中での主張	225
15.2	ウランは呪いのようなだ	227
15.3	ノーベル化学賞の受賞者	230
15.4	マックス・プランク協会の会長	232
第16章	原爆外交	235
16.1	一片のよいニュース	235
16.2	巨大な政治ステッキ	236
16.3	ノーモア・ヒロシマ	238
第17章	良心と政治の葛藤	241
17.1	推理小説の代わりに原子力文献	241

17.2	コバルト 60	242
17.3	マイナウ島宣言	245
17.4	国際原子力会議	247
第18章	ゲッティンゲンの18人の要求	251
18.1	沈黙したが納得せず	251
18.2	NATO 将校, 秘密を外部に漏らす	254
18.3	ゲッティンゲン宣言	255
18.4	「察しの悪い愚か者」	258
18.5	10 対 5	260
18.6	不適當なコミュニケ	263
第19章	核兵器の実験と核の均衡に反対して	265
19.1	政治的信条	265
19.2	名誉と賞	267
19.3	去りゆく会長	269
19.4	最後の旅	270
19.5	原子爆弾ストップ	271
19.6	地上の太陽：科学の責任	272
第20章	年表	277
	訳者あとがき	287
	人名索引	292